

足利市児童の初潮と発育との関連について

足利市養護教育研究会西部班

足利市立三和小学校 永井美根子
 ” 山前小学校 岡 芳子
 ” 葉鹿小学校 坂田ひさ子
 ” 柳原小学校 前川千恵子
 ” 三重小学校 小林 千代
 ” 西 小学校 高橋イク子
 ” 小俣小学校 天海 玲子

1. はじめに

発育が一定の数値に達したとき（とくに身長と体重において）初潮が現われるという研究があり、アメリカあたりではその数値を達成度という言葉であらまし、初潮発現のめやすとしている。また、近年初潮の早発化傾向にあり、学校現場では一斉指導だけでなく個別指導を行なうことで、性的発達の個人差の問題を補って行く必要があると思う。そこで足利市児童の発育発達と初潮発現との数的関係、5・6年生児童の性意識の実態についてまとめ、これまでの研究結果と足利市児童の発育のようすを比べ、今後の指導の手がかりをつかみたいという発想のもとに着手した。

2. 調査の対象と方法

- (1) 発育関係 a 調査時期 53年2月～3月
 b 対 象 5・6年生女子の初潮を迎えた児童
 c 調査方法 初潮調査の方法は各校に一任

調 査 用 紙 例

学 校 名 (ゴ ム 印)		学 年 名 前											
生 年 月 日		年 月 日 生											
初 潮 時 の 満 年 令		才 ヶ 月 (年 生 の 月)											
		小1	ふえ た量	小2	ふえ た量	小3	ふえ た量	小4	ふえ た量	小5	ふえ た量	小6	ふえ た量
身	長												
体	重												
胸	囲												

- (2) 性意識の調査 a 調査時期 53年2月～3月
 b 対 象 5・6年生男女
 c 調査方法 アンケートによりその実施方法については各校に一任
 d 調査内容

イ 性についてのことば（隠語とか専門的な用語など）なんでも知っているものを書かせてその情報源や発達度などをみる。

- ロ 性についてどう思っているか、確立されたイメージをもった子がどれくらいいるのかをみる。
- ハ 性についての知識の情報源を子どもたちは何による影響が大きいのかをみる。
- ニ 性の知識を正しく理解するために子どもたちは学校または先生に今まで以上に期待しているのかどうかをみる。
- ホ おおびらに人に聞けない性についての子どもたちの疑問や悩みをきき発達度をみる。

(1)・(2)の調査をもとにして次の4つの調査項目に分けて集計した。

- ・ 年令別初潮発現率調査
- ・ 初潮学年別体格平均値調査
- ・ 初潮学年別体格発育の年間増加量調査
- ・ 5・6年生児童の性意識の調査

3. 調査の内容と考察

(1) 年令別の初潮発現状況

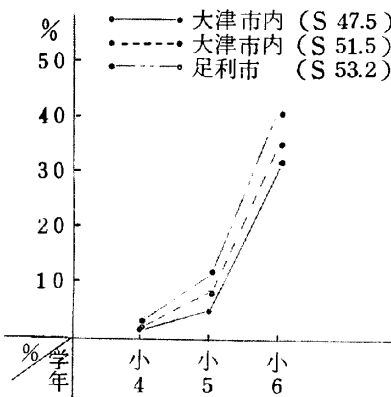
表1 年令別の初潮発現率

S 53.2 %

対象 \ 学年	小 3	小 4	小 5	小 6	既 潮	未 潮	N
小 5	0.1	2.0	9.8		11.9	88.1	1.059
小 6	0.2	2.0	12.7	25.9	40.8	59.2	1.164

表1は5・6年女子(2,223名)を対象として、初潮発現率を求めたものである。最も早い初潮発現は、小3(8才)であって3名(0.1%)いる4年生の発現率は(2.0%)である。この程度の発現は例年見られている。足利市の学年別初潮発現の傾向としては、4年で(2.0%)5年で(9.8~12.7%)6年で(25.9%)である。6年までの既潮者は40.8%となっている。

参考資料 中3対象調査
(大津市の場合)



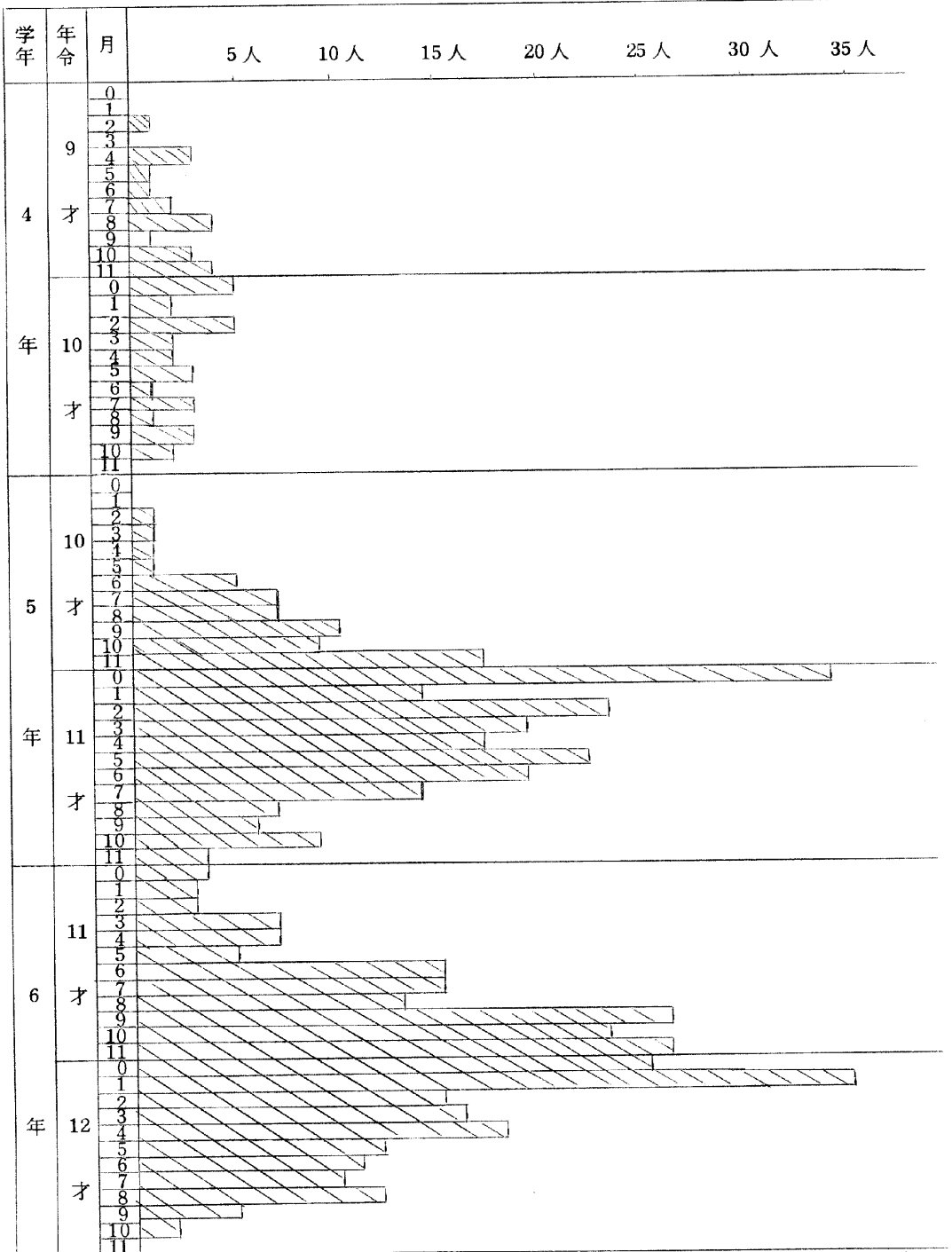
左の表は大津市児童と足利市児童とを比較したものである。

51年に調査した大津市内の6年の既潮者は、約35%である。幾分本市の場合の方が多いが、調査年月が大津市の場合51年5月であるので、そこに差が出ていると思われる。

大津市内のS 47.5月調査した初潮発現率とS 51年の調査及び本市とを比べてみると、初潮の早発化傾向がうかがわれる。

表2 (イ) 年令別・学年別初潮発現状況

S 53.2



※ 3年生児童3名（8才5ヶ月1名，8才10ヶ月2名）いたが，少数なので表より除いた。

表2 (ロ) 年令別初潮発現状況

S 53.2

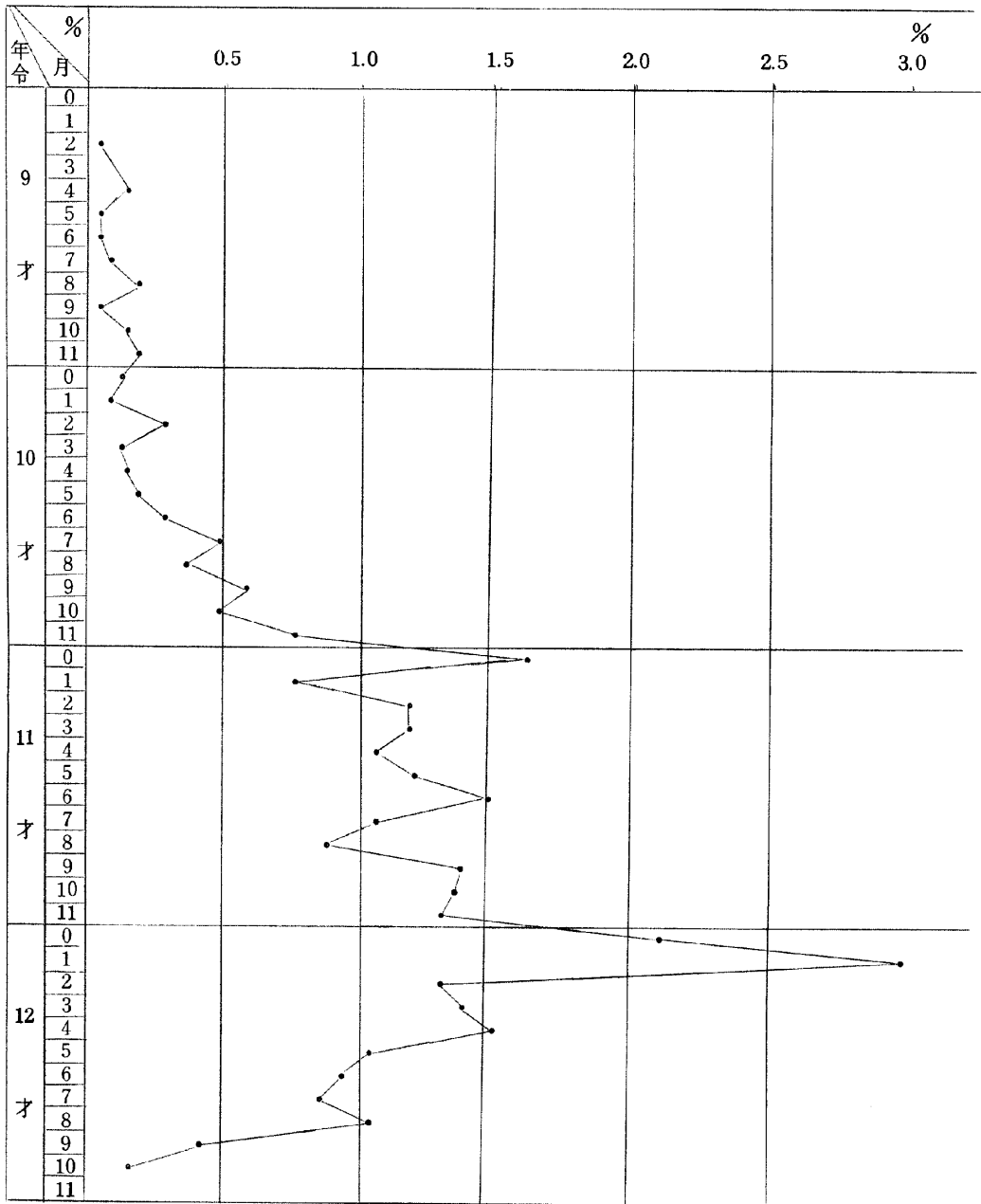


表2 (イ) 学年別・月別初潮発現状況

S 53.3

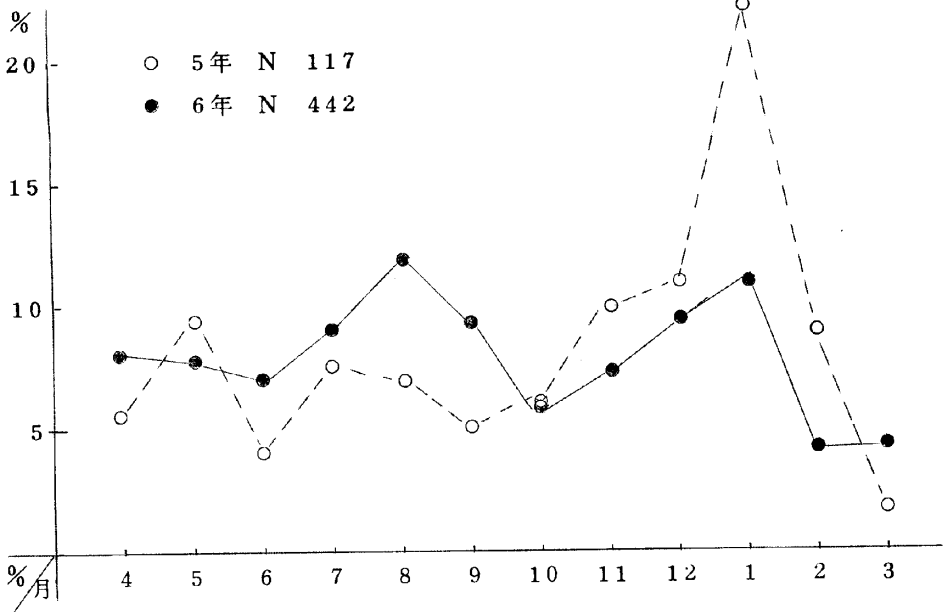


表2(イ)は年令的に初潮を迎える時期として、5年生では10才6ヶ月より徐々に多くなり、11才0ヶ月をピークとして徐々に少なくなっている、6年生は11才6ヶ月より増加の傾向をしめし12才1ヶ月をピークとして下降している。

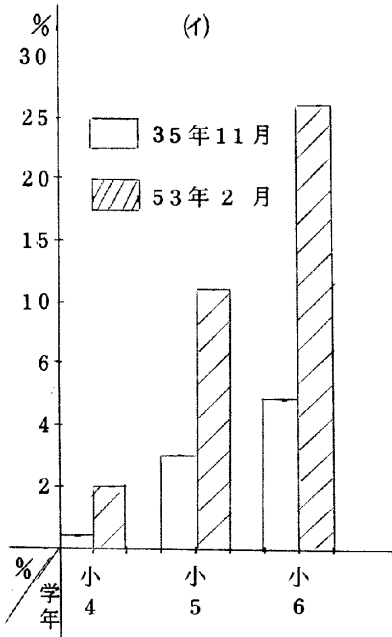
表2(ロ)は年令別にみると11才0ヶ月より徐々に増加し12才1ヶ月をピークにしてその後多少の増減はあるが増加の傾向をたどっている12才5ヶ月以後の下降している現象は6年の既潮者40.8%と頻度数が半分以下であるため、中学校に入ってから初潮を迎える児童が多いと推定されるので、調査年月との関係による数値と考えられる。

表2(ハ)は月別にみると、5年生は1月が最も多く、次が12月・11月・5月となっている。6年生は8月が最も多く、次が1月・12月・9月の順になる6年生においては従来から言われている夏休み中・冬休み中に多いといわれているのに一致する。

表3は足利市における昭和35年の初潮発現のようすと昭和53年の初潮発現のようすとを比較したものである。

これによると4年では0.3%が2%に5年では2.9%が11.0%にそれぞれ前傾化のようすとをしめしているが、特に小6は35年で4.9%・53年は25.9%となっており、ひらきは2.1%で小4・小5の前傾化よりも大きな差をみせている。

表3 足利市におけるS35年・S53年の初潮発現率の比較



(ロ) 学年別比較

年月 学年	昭和35年11月	昭和53年2月
小4	5人 (0.3%)	45人 (2.0%)
小5	52人 (2.9%)	245人 (11.0%)
小6	87人 (4.9%)	302人 (25.9%)
調査人員	1,771人	(うち6年, 1,164人) 2,223人

(ハ) 年齢別比較

年月 年齢	昭和35年11月	昭和53年2月	調査人員	
			35年	53年
9才	0	20人 (0.9%)	182人	2,223人
10才	0	88人 (3.9%)	〃	〃
11才	2人 (1.1%)	327人 (14.7%)	〃	〃
12才	11人 (6.0%)	161人 (13.8%)	〃	1,164人

※ S35年の調査は中学3年の既潮者対象による。

初潮年齢の地域差は、気候・風土の影響のみでなく、地域による産業構造の相違、ひいては生活様式の相違によると言われているが、足利市の場合も、この調査統計による限り、その事の推測が可能である。又、初潮の発現は過去において、大都市で最も早く前傾化の傾向を示し次いで、中都市、農山村地域、僻地といわれているが、本市の場合も、その例にもれず、中都市としての前傾化があきらかである。

表4 (イ) 5・6年既潮者を対象とした学校別・学年別初潮発現率

S 53.2

対 象 学 年 初 潮 年 項 目 学校名	5・6年			5・6年			5・6年			6年		
	3年			4年			5年			6年		
	N	来潮人数	%	N	来潮人数	%	N	来潮人数	%	N	来潮人数	%
柳原	152			152	1	0.7	152	18	11.8	78	23	29.5
東	58	1	1.7	58	2	3.4	58	3	5.2	24	3	12.5
西	93			93	3	3.2	93	13	14.0	57	11	19.3
相生	94			94	1	1.1	94	8	8.5	54	14	25.9
助戸	94			94	1	1.1	94	7	7.4	55	18	32.7
千才	125			125	1	0.8	125	9	7.2	74	9	12.2
毛野	199			199	4	2.0	199	34	17.1	113	20	17.7
山辺	205			205	8	3.9	205	27	13.2	86	20	23.3
南	138			138	0		138	13	9.4	66	16	24.2
三重	147			147	3	2.0	147	13	8.8	81	28	34.6
山前	169	1	0.6	169	6	3.6	169	13	7.7	96	29	30.2
北郷	109			109	3	2.8	109	8	3.3	47	10	21.3
富田	61			61	1	1.6	61	10	16.4	38	4	10.5
矢場川	63			63	0		63	3	4.8	31	14	45.2
筑波	51			51	2	3.9	51	10	19.6	23	11	47.8
御厨	162	1	0.6	162	2	1.2	162	23	14.2	80	27	33.8
三和	65			65	1	0.8	65	5	3.8	36	6	8.0
葉鹿	81			81	3	3.7	81	7	8.6	50	19	38.0
小俣	95			95	2	2.1	95	15	15.8	51	13	25.5
名草	28			28	0		28	3	10.7	7	1	14.3
梁田	34			34	1	2.9	34	3	8.8	17	6	35.3
合計	2223	3	0.13	2223	45	2.0	2223	245	11.2	1,164	302	25.9

表4 (イ) 5・6年児童のうち、3年生で初潮をみたもの、3名(0.13%) 4年生で初潮をみたもの45名(2.0%) 5年生では245名(11.2%) 6年生で302名(25.9%)である。
これでは学校差や地域差と言うものはあまり考えられない。

表4. (□)6年生の累計既潮率
S 5 3. 2

項目 学校名	N	既潮 人数	%
柳原	78	38	49
東	24	6	25
西	57	21	37
相生	54	20	37
助戸	55	25	46
千才	74	15	20
毛野	113	41	36
山辺	86	42	49
南	66	21	32
三重	81	37	46
山前	96	38	40
北郷	47	15	31.9
富田	38	15	39
矢場川	31	17	55
筑波	23	17	74
御厨	80	38	48
三和	36	8	22.2
業鹿	50	28	56
小俣	51	24	47
名草	7	1	14.3
梁田	17	8	47
合計	1,164	475	40.8

表4の(□) 6年までの累計既潮者率を学校別にみると、地域による大きな差は見られない。一番少ないところでは14.3%,多いのが74%である。少なかった学校は6年女子の人数も少なく7人と言う小規模校である。今回の調べによると足利市の6年生における平均既潮率は41%前後でおさえられる。

(2) 初潮学年別発育状況

表5 (イ)5・6年既潮者と対象した初潮学年別
体格平均値

S 5 3. 2

項目	対象学年	初潮学年 対象人員	対象学年			
			5・6	5・6	5・6	5・6
			3	4	5	6
身長	5	121	139.4	142.9	144.8	
	6	475	1343	141.2	143.9	147.9
体重	5	121	35.5	39.7	38.6	
	6	475	34.9	36.9	38.8	40.1
胸囲	5	121	71.8	72.4	71.3	
	6	475	66.2	71.1	71.6	72.6

表5 (イ)は5・6年の既潮者を対象にそれぞれ初潮学年の体格測定値を調査し、平均値を求めたものである。6年の場合、身長147.9 cm, 体重40.1 Kg, 胸囲72.6 cmに達した時, 5年では、身長143.9~144.8, 体重, 38.6~38.8 Kg, 胸囲, 71.3~72.6 cmに達した時, 初潮がみられ, 初潮学年が早いほど体格測定値は若干小さい傾向がみられる。そのようすは身長において最もよく現われている。(表6参照)

表5 (ロ) 5・6年既潮者を対象とした初潮学年別身長、体重、胸囲の平均

昭53.2 調

学校別	身長				体重				胸 囲			
	5・6年	5・6年	5・6年	5・6年	5・6年	5・6年	5・6年	5・6年	5・6年	5・6年	5・6年	5・6年
	3	4	5	6	3	4	5	6	3	4	5	6
	cm	cm	cm	cm	Kg	Kg	Kg	Kg	cm	cm	cm	cm
対象初潮学年平均	130.6	141.6	144.3	147.9	34.9	37.1	39.4	40.1	66.2	69.4	72.6	73.1
柳 原		•152.9	•146.0	•147.6		•44.0	•43.4	•41.2		72.1	69.1	72.0
東	120.5	144.8	145.4	•148.9	23.3	31.5	38.6	39.4	59.5	64.2	71.0	72.3
西		137.5	•146.4	•146.1		29.0	39.0	38.0		62.1	71.9	72.7
相生		141.5	•145.1	•149.2		38.3	38.7	41.5		•73.0	70.0	•73.0
助 戸		139.6	144.0	•155.4		31.9	38.8	42.1		68.2	•73.2	•74.0
千 歳		140.6	145.1	•147.8		35.1	38.0	41.3		68.6	68.3	•74.1
毛 野		144.9	143.7	•147.5		38.7	39.2	38.6		71.3	72.9	71.1
山 辺		141.0	143.3	•146.2		37.8	37.9	39.6		71.0	71.6	71.9
南			144.0	•147.1			38.9	•42.5			71.1	•75.6
三 重		139.0	144.2	•147.0		•41.6	36.3	39.6		•75.1	68.4	71.6
山 前	•148.2	145.8	144.6	145.7	•46.5	•42.5	39.7	39.3	72.9	•74.8	72.8	71.7
北 郷		138.6	•147.9	•149.8		32.5	38.6	•41.5		65.8	69.8	72.9
富 田		140.2	138.2	•152.1		35.0	31.0	•44.6		70.8	69.0	•74.7
矢 場 川			145.3	•147.8			39.9	38.9			70.9	•74.1
筑 波		142.7	•146.4	•146.2		35.5	•41.2	37.7		69.5	•73.8	71.1
御 厨	139.4	138.3	143.9	•147.0	35.5	36.6	38.9	38.8	71.8	66.8	72.0	72.3
三 和		•143.1	141.3	•147.5		37.7	35.9	•40.9		67.5	66.2	69.8
葉 鹿		141.9	•146.6	•147.1		•43.2	41.5	37.8		•76.0	•74.7	71.9
小 俣		140.1	143.7	•149.8		•45.8	38.1	•42.3		•79.0	72.3	•75.7
名 草			•146.9	•156.9			•40.0	•45.7			•73.2	•79.4
梁 田		143.0	144.8	•146.3		38.5	•42.7	•41.1		•73.1	•75.7	•73.0
参考足利市平均	125.3	131.4	137.4	144.4	25.1	28.3	32.4	37.3	60.1	62.9	66.4	70.5

※ 足利市平均は52年度定期健康診断結果による。

※ ・印は初潮発現学年の平均体格〔身長148.0～149.5 cm, 体重40 Kg, 胸囲73 cm (松林鏑之氏)〕
 “ 146.0～148.0 cm (松本清一氏)

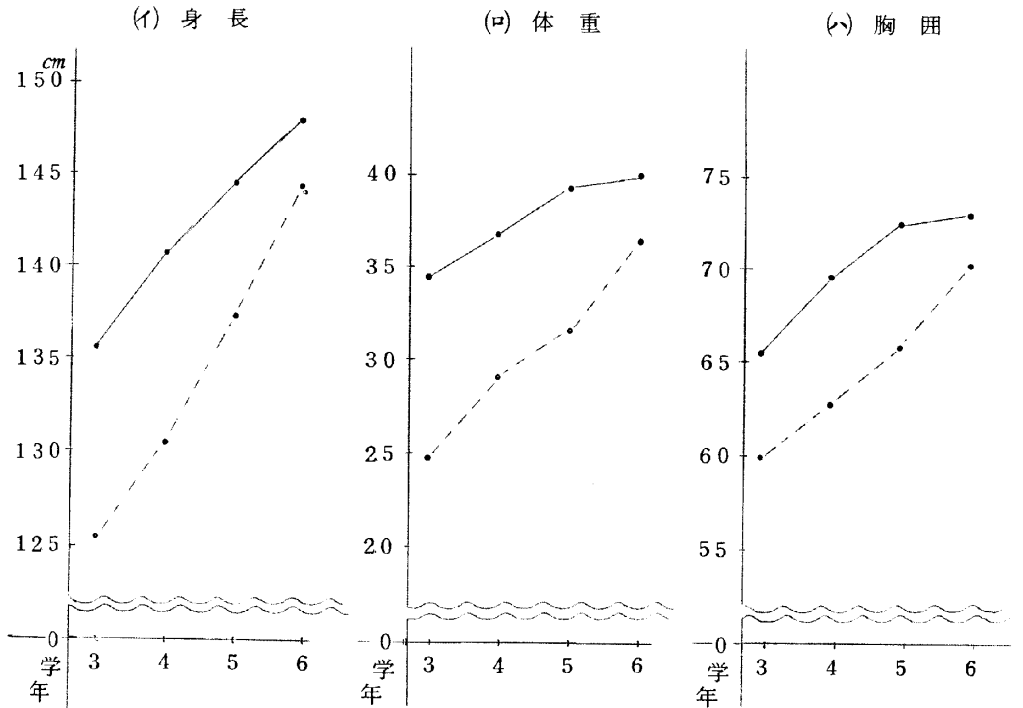
と同じ、又は上まわっているもの。

表5(ロ)の、初潮学年の平均体格は、生活環境の如何にかかわらず、一定であるようにいわれているが、本市の場合この平均体格に達するのは、多くが6年児である。5年以下については周辺地区に

大きい子がみられ、生活環境をとわないことが伺われる。上記体格に達する児童すべてに初潮をみるということはない。この期の児童は非常に個人差が大きいので、個人の発育状況については常に細かい観察と記録が必要である。

表6 初潮発現学年体格平均と足利市児童体格平均との比較

昭53.2月調

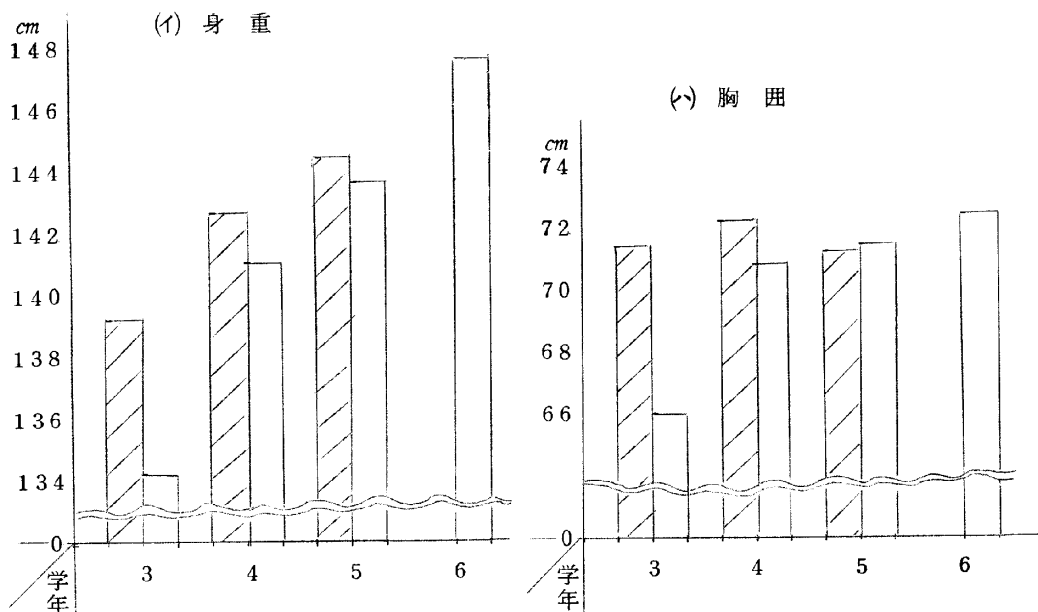


※ —●— 5・6年既潮者の発現年体格平均 - - - ● - - - 53年度定期健康診断足利市平均

表6は、初潮発現学年の体格平均と足利市児童の体格平均とを比較したものである。これによると(イ)、(ロ)、(ハ)にみるように、すべて測定値は既潮者の方が大きい、3・4年児は身長において、10cm以上、体重において9~10kg、胸囲は3・4・5年とも6cm以上うわまわっている。初潮学年が早いほど、その差の大きい点を見ると、低学年の場合、一般にいう“からだの大きい子は初潮が早い”といわれていることがうなずける。

現実には、身長120.5cm、体重23.3kg、胸囲59.5cmという3年生としては小さい児童でも初潮をみている例がある。

表7 5・6年生既潮者を対象とした初潮発現学年別体格平均の比較



※ (i), (ii), (iii) ともに

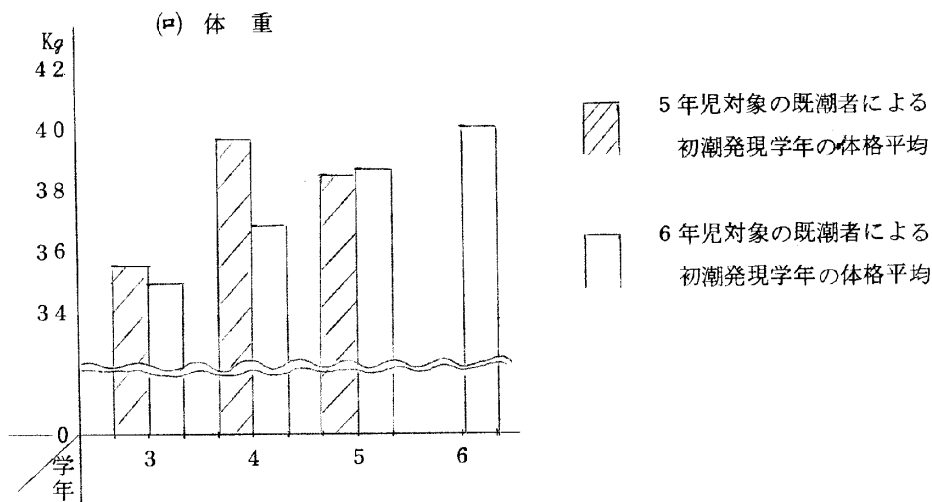
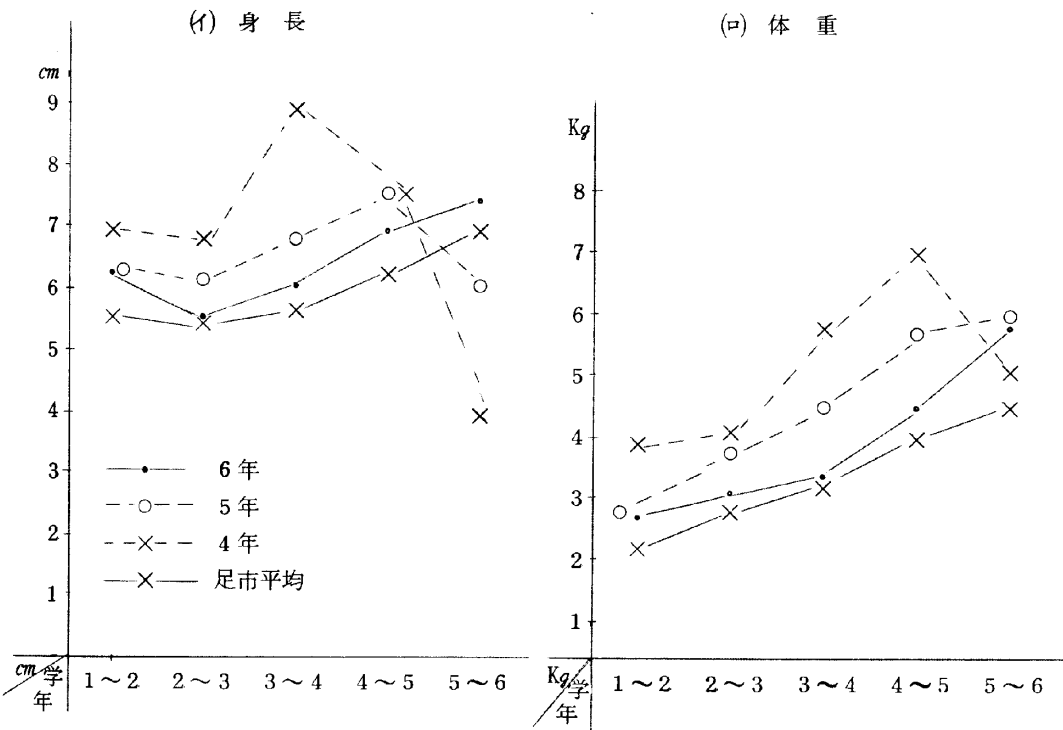


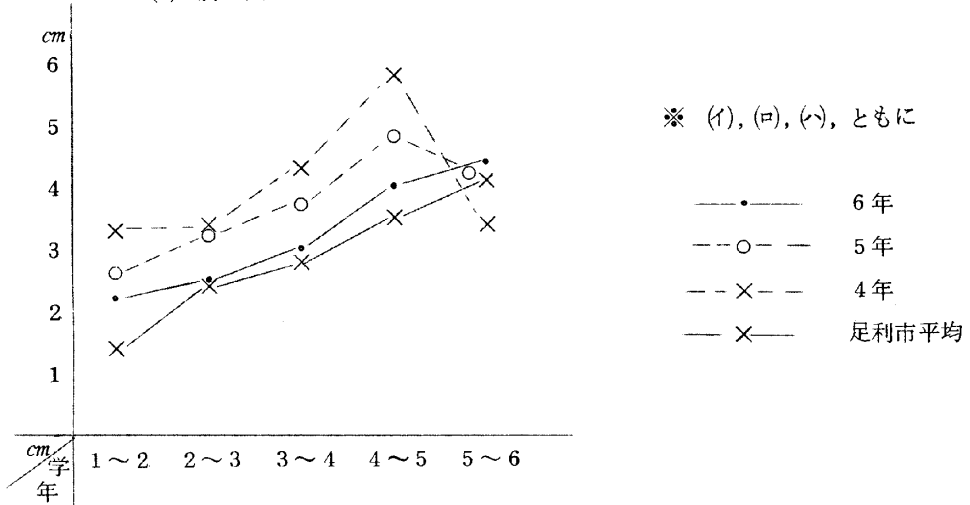
表7は低学年ほど対象者が少ないが、初潮発現学年別に体格平均値をグラフ化してみた。〔表5(参照)(i), (ii), (iii), ともに6年の既潮者対象群より、5年の既潮者対象群の方に大きい者が、いることに注目したい。何に原因するかわからないが、その年度における学年の特質があるのは確で、思わぬハプニングを経験させられることもあるから、この現象もその特質によるものと思われ、1年で前傾化されたとは思えない。

表8 5・6年生既潮者を対象とした初潮学年別体格発育の年間増加量

項 年 初潮 学年	身 長					体 重					胸 囲				
	1年 ∩ 2年	2年 ∩ 3年	3年 ∩ 4年	4年 ∩ 5年	5年 ∩ 6年	1年 ∩ 2年	2年 ∩ 3年	3年 ∩ 4年	4年 ∩ 5年	5年 ∩ 6年	1年 ∩ 2年	2年 ∩ 3年	3年 ∩ 4年	4年 ∩ 5年	5年 ∩ 6年
	6年	6.3	5.6	6.1	7.0	7.5	2.7	3.1	3.5	4.6	5.8	2.2	2.5	3.0	4.0
5年	6.4	6.2	6.9	7.6	6.1	2.8	3.7	4.6	5.8	6.0	2.6	3.2	3.7	4.8	4.2
4年	7.0	6.9	9.0	7.6	3.8	3.9	4.1	5.9	7.1	5.2	3.3	3.4	4.3	5.8	3.4
3年	8.0	7.6	6.1	3.8	2.6	4.2	5.2	3.9	4.1	4.7	3.6	3.5	2.5	4.1	2.6
足市 平均	5.6	5.5	5.7	6.4	7.0	2.2	2.8	3.2	4.1	4.6	1.4	2.4	2.8	3.5	4.1



(イ) 胸囲



※ (イ), (ロ), (ハ), とともに

—●— 6年
 - - ○ - - 5年
 - - × - - 4年
 —×— 足利市平均

(イ)の身長発育増加量は、初潮学年の前年より急増の傾向を示している。例えば、6年初潮発現群は、5年～6年にかけて、7.5 cm、5年初潮発現群では、4年～5年にかけて、7.6 cm 4年初潮発現群は、3～4年にかけて9 cmという最大値を示している。

これを、昭和52年度足利市の学年別体格平均増加量と比較してみると、どの初潮学年においても上まわっており、初潮学年においてその差が一番大きく、初潮発現の早いほど開きのあることもわかる。6年で0.5 cm、5年で1.2 cm、4年で3.3 cmである。

(ロ)の体重増加量は、初潮学年または次年度において、増加最大値を示している。身長の前年比に比べて、ややおきていることが、明らかである。6年初潮発現群は5年～6年で5.8 Kg、5年初潮発現群では、5年～6年で、6.0 Kg、4年初潮発現群では4年～5年で7.1 Kg、と最大値を示している。

これを足利市学年別体格平均増加量と比較してみると、体重でも初潮発現の早い群ほど差が大きくなり、6年で1.2 Kg、5年で1.7 Kg、4年では2.7 Kgである。

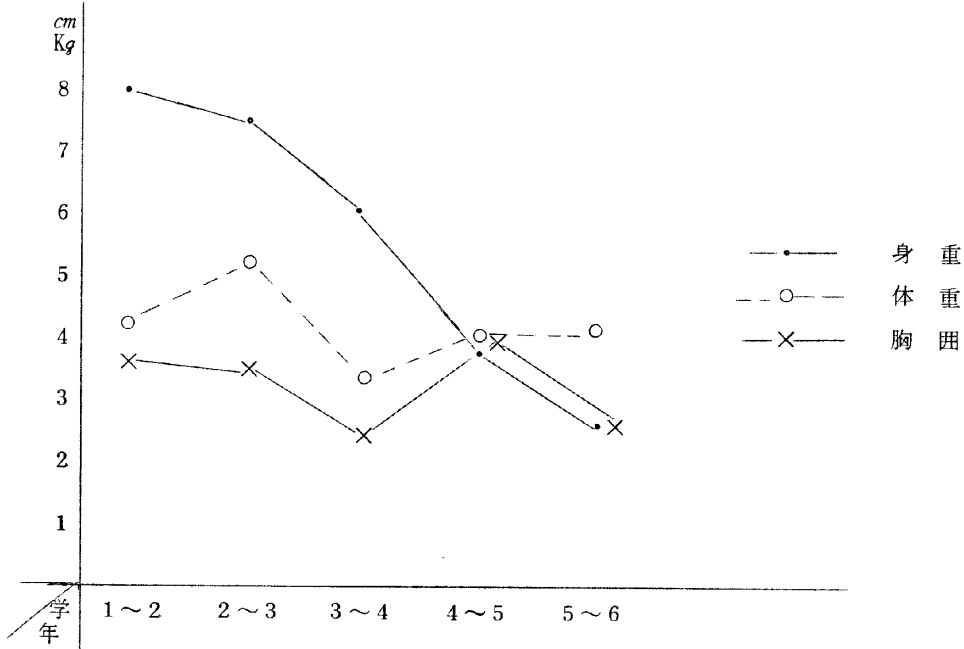
(ハ)の胸囲増加量は、体重とほとんど同じく、初潮学年において最大値を示しているが、4年初潮発現群の場合は次年度において最大増加値を示している。

足利市学年別体格平均値との差はここでも初潮発現の早い群ほど、差が開きがあるが、身長、体重ほど明らかではない。6年で0.3 cm、5年で1.3 cm、4年で1.5 cmである。

いずれにしても、身長、体重、胸囲とも初潮発現前年、もしくは、その学年において急増し、以後増加量はゆるい波状型のカーブで成長をつづけていくように思われる。

体格発育の著しい場合、とくに身長伸びに注意して個人指導をする必要があると思う。

表9 5・6年生既潮者を対象とした3年初潮発現児の学年別体格発育増加量



3名の僅少値であるため、統計的に問題があり、これをもって正常値とは考えられないが、身長では前々年の1~2年で最大増加量を示し、以後学年を追って、増加量は下降している。

この表では、体重、胸囲とも、表8と異なり、前年度かなりの増加量となり初潮学年にはむしろ下って、その後増加量は、暫時のびている。